

謝辞

佐々木 利 廣

2022年3月末をもって42年間奉職した京都産業大学を定年退職いたしました。それから一年経った2023年3月に退職記念号を発行頂きました。編集に携わってこられた京都産業大学マネジメント研究会の多くの先生方には厚く御礼申し上げます。また在間敬子学部長には丁重な献呈のお言葉を賜り、謹んで御礼を申し上げます。

1980年4月に縁あって京都産業大学経営学部の一教員として赴任しましたが、赴任直後は担当する専門科目も曖昧なまま自由気ままに研究教育活動を行っていました。思い返すと無駄にもみえるこの期間が、その後の研究スタイルに大きな影響を与えることになったことを再認識いたします。1984年から新規科目として組織行動論を担当することになり、それ以降退職まで組織論や組織間関係論を担当してきました。自ら主体的に考え行動するための組織論を受講生とともに考え学ぶ過程での試行錯誤をもとに、定年退職後ではありましたが佐々木利廣・福原康司編著(2022)『自分事化の組織論』学文社を上梓することができました。また40年以上専門として拘り続けてきた組織間関係論の方向を示すために佐々木利廣・横山恵子・後藤祐一編著(2022)『日本のコレクティブ・インパクト』中央経済社を出版することができ、思いもかけず日本ベンチャー学会清成忠男賞にも選定されました。

京都産業大学経営学部は、常に研究を第一の柱にしながらかつて教員間の日々のコミュニケーションを基盤に風通しの良い学部づくりを考え実行してきたように思います。そして大きな節目には果敢に新しいチャレンジを続けてきた学部でもあります。歴代の学部長をはじめ多くの素晴らしい先生方に囲まれ、細々とではありますが研究教育活動を続けることができた幸運に対して心から感謝すると同時に、これまで頂いた多大の学恩に改めて厚く御礼申し上げます。

本記念号にご寄稿をお願いした加藤高明先生(愛知工科大学教授)、東俊之先生(長野県立大学准教授)、堀野亘求先生(敬和学園大学准教授)の3名は、いずれも大学教員として活躍している京都産業大学経営学部佐々木ゼミOBです。大学内外で益々多忙になる中で快く原稿を纏めて頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

定年退職後も京都産業大学経営学部応援団としてエールを送り続けながら、社会的な価値創造に向けて幾ばくかの貢献ができればと思います。